

第25回 学術研究賞 受賞者

アジュマルディ・アズラ Azyumardi AZRA

●インドネシア / 歴史学



市民フォーラム

民主化し発展するインドネシア ～日本・欧米・イスラーム世界を結ぶ絆～

■開催日/2014年9月21日(日) 17:00～19:00
 ■会場/アクロス福岡地下2階 イベントホール
 ■参加者/150人



<第一部 基調講演>

建国5原則で穏やかな社会実現 新政権発足で進む両国の緊密化

インドネシアは多文化主義の国で様々な異なる伝統を持っている国であり、多くの宗教を持つ国でもあります。全人口2億4千500万人の88.7%、2億人以上がイスラーム教徒ですが、イスラーム国家ではありませんし、国教を定めてはいません。我が国ではパンチャシラ、つまり建国5原則が拠りどころです。①唯一神への信仰②インドネシアの統一③人道主義④民主主義⑤国民への社会正義。これが国の重要な基盤であり、宗教的にも友好的な原則です。我が国のイスラーム教は穏健さを重要視し、平和的で土着の文化を包容し、寛容性もあって他宗教との共存も堅持しています。

我が国には市民社会をベースとした大きなイスラーム組織があります。最大の組織ナフダトゥル・ウラマーは頭文字からNUと呼ばれ、会員4千万人に達しています。もう1つの組織がムハマディアで、幼稚園から大学まで13,000もの学校を持っています。このようなイスラーム組織は他の国にはみられないもので、これが我が国の穏健さにつながっており、国と草の根の人々との仲介や、社会的な融

和を保つ役割も果たしています。我が国はこの組織をベースに安定した社会を実現しており、非常に恵まれていると思います。

今年7月に大統領選挙があり、誰かが殺されることもなく平和的に行われ、前ジャカルタ州知事のジョコウィ氏が選出されました。我が国は日本と同じ民主主義国家であり、相互に経済的な利害関係も持っていますが、新政権の誕生によって両国の関係はさらに緊密になり、強化されることでしょう。我が国は現在、年率5～6%の経済成長を継続し、さらに伸びると予想され、中間層も急増しています。新政権は電気や発電、交通網などのインフラ開発を進め、汚職やマフィアの根絶に積極的に取り組んでいくでしょう。

日本とインドネシアは中東沿岸諸国から原油を輸入しており、中東のイスラームの国から信頼され、敬意を払われています。また我が国はこうした中東諸国に影響を持っています。両国はどちらも中東エリアに地政学的な利害関係を持っていません。したがって両国が仲介することで、中東地域に平和をもたらす試みを進めることができるかもしれません。東京で開催する平和会議に、両国が中東諸国に参加を呼びかければ、その要請を受けるのではないのでしょうか。平和の構築という素晴らしい仕事について、インドネシアと日本が協力していくことができれば、大変うれしいことと思います。

<第二部 パネルディスカッション>



●コーディネーター

清水 展

京都大学東南アジア研究所
教授



●パネリスト

中村 光男

千葉大学名誉教授



●パネリスト

大形 里美

九州国際大学
国際関係学部教授

努力が報われる、安定した社会の証

インドネシア研究40年という大ベテランの中村光男氏が、研究者・歴史学者、教育者、公共的知識人という3つの観点から、アズラ氏の業績を紹介。民主化し発展するインドネシアそのものを体現し、イスラーム世界と日本、欧米を結ぶ人物だと結論づけました。イスラーム研究の必読書とされる著作については、アラビア語で書かれたイスラーム学者の伝記を資料に、17・18世紀の中東からインドネシアに及ぶ広大なエリアが緊密に連携し、独自のイスラーム文化圏を形成していた事実を示したと紹介。そしてアズラ氏がインドネシア国立イスラーム大学に医学部等を新設し、総合大学に昇格させ、その際、日本政府から30億円の借款を実現したことを指摘しました。

これを受けて清水展氏は「苦学してここまでの地位を築かれたアズラ氏ご自身の努力と運もありますが、努力すれば報われるという事実が、インドネシアの安定した社会の証」と強調します。インドネシアの女性と企業を研究する大形里美氏は、スカーフ着用観点から女性の意識変化を追跡。最近ではイスラーム法を重視する傾向が強まっているとのインドネシア社会の分析を示しました。

会場からのなぜインドネシアでは対立が生じないのか、という質問にアズラ氏は「我が国のイスラーム教は非常に包容的、寛容的、平和的だからです」と答えました。

VOICE



▼今年、10日間ほどインドネシアのバリへ旅行しましたが、貧しい面もそれなりに目撃しました。しかし、今日の講演でインドネシア社会の現状やこれからの課題などが、とてもよく分かりました。(左:永江真夫さん、城南区) ▼数多くの島がありながら、国として1つにまとまっている理由が理解できました。ファッションとしてのスカーフ着用ならいいけど、イスラーム意識が強くなるのは少しだけ心配になりますね。(右:永江賢子さん、同)

学校訪問

■実施日/9月19日(金) 15:10～16:00
 ■会場/福岡県立福岡中央高等学校 講堂



アズラ氏は冒頭、ヨーロッパとアメリカの地図に、それぞれインドネシアの地図を重ねて東西の幅を比較し、インドネシア国内の東西の移動は飛行機で数時間かかると説明。そして人口や宗教、言語や歴史、建国5原則や教育制度などを詳しく紹介します。「我が国の特長は多文化主義ですが、『多』とはそれぞれの異なる文化、習慣を尊重し、認め合うということ。また他のイスラーム諸国に比べて、我が国の女性には、多くの自由が与えられています」と強調しました。

インドネシアで人気の食べ物は、という質問にアズラ氏は、スマトラ島のパダンではなぜか「ほかほか弁当」の人气が高いと答え、ジャカルタをはじめ、多くの都市で和食が人気だと説明しました。日本では宗教に関心を持たない人が多いことについて、どう思いますか、という質問には「インドネシアでは若者でも宗教への関心が高く、モスクや教会、寺院などの祈りの場に通り、宗教を実践している」と静かに語りました。

テレビやインターネットではわからない宗教観や生活習慣の違いに、生徒の興味は尽きなかったようです。

アジア文化サロン

■実施日/9月19日(金) 16:30～17:30
 ■会場/福岡アジアビジネスセンター 交流スペース



福岡で貿易に関するビジネスを手掛ける人々を対象に、文化サロンを開催。アズラ氏はインドネシアの地理や宗教を紹介した後、「我が国の最大の特徴は人口の多さであり、世界第3位の民主主義国家であること」とし、4月の議会選挙も7月の大統領選挙も、何の抗争もなく平和的に行われ、選挙結果についても裁判所を通じて解決した、と現状を解説します。

新しく選出されたジョコウィ大統領は、都市高速鉄道システムの建設を決断。日本とインドネシアの企業がコンソーシアムを設立して建設中であり、新政権はインフラ整備を優先し、行政手続きの簡素化を進め、さらなる経済成長を目指す方針であると分析。新政権はどのような産業政策なのか、という質問には「水産関係の部門を強化し、高速道路だけではなく海上交通の整備を推進していくでしょう。経済援助の効果もあって、日本への信頼性は格段に向上。日本から我が国への投資には、何の問題もありません」と強調しました。